

第 30 回電波功績賞表彰式を開催

2019年6月25日(火)、第9回定時総会に引き続き、第30回電波功績賞表彰式が開催されました。まず、國重総務大臣政務官からご祝辞を頂戴し、総務大臣表彰の受賞者の方々に表彰状が授与されました。ついで、当会の吉田会長から一般社団法人電波産業会会長表彰の受賞者の方々に表彰状が贈呈されました。

表彰状受領後、受賞者を代表して八所様(日本電気株式会社 放送・メディア事業部)よりご挨拶がありました。



電波功績賞表彰式終了後の記念撮影

後列	古田様	山下様	奥村様	安部田様	上口様		
前列	田原電波部長	八所様	羽鳥委員長	國重総務大臣政務官	吉田会長	水谷様	永田様

1 総務大臣表彰

(1) 「4K・8K 放送機器の開発と新 4K8K 衛星放送送出システムの実用化」

日本電気株式会社 放送・メディア事業部

代表 八所 昌宏 殿（日本電気株式会社 放送・メディア事業部
第二技術部 マネージャー）

新 4K8K 衛星放送のサービスを実現するために、4K・8K 映像・音声を処理するベースバンド機器並びに圧縮符号化装置、多重化装置を開発し、また、それらの機器をキーコンポーネントとした送出システムを構築し、新 4K8K 衛星放送の合計 9 チャンネルの同時放送開始を実現するとともに、データ圧縮によるデータ伝送の効率化を実現するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

(2) 「新 4K8K 衛星放送の実用化に伴う BS 右旋の周波数再編の推進」

一般社団法人 放送サービス高度化推進協会 BS 右旋帯域再編実施グループ

代表 水谷 芳信 殿（株式会社ビーエスフジ 取締役）

新 4K8K 衛星放送のサービス開始に向け、既存 BS 放送と同じ右旋円偏波で新 4K 放送を合計 6 番組サービスできるようにするため、BS 放送事業者、受信機メーカー等の関係者と協力して、技術的な課題の調査、事業者間調整及び視聴者への周知などの作業を短時間で円滑に推進することで、全国の視聴者が関わる極めて大規模な周波数再編を実現し、電波の有効利用に大きく貢献した。

(3) 「第 5 世代移動体通信システムの実用化に向けた国際標準仕様策定」

永田 聡 殿（株式会社 NTT ドコモ 5G イノベーション推進室 担当課長）

第 5 世代移動体通信（5G）の国際標準仕様を策定する活動において、3GPP 標準化会合の場で積極的に活動し、3GPP TSG-RAN* WG1 の副議長、議長を務め、高速大容量通信の仕様など 5G 国際標準の策定を大きくリードするとともに、多数の 5G 関連特許の出願、学術論文の執筆なども行い、5G システムの実用化に寄与するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

* TSG-RAN : Technical Specification Group - Radio Access Network

2 一般社団法人電波産業会会長表彰

(1) 「デジタル業務無線における高騒音対応雑音抑圧技術の開発および実用化」

三菱電機株式会社

代表 古田 訓 殿（三菱電機株式会社 情報技術総合研究所 情報表現技術部
音響技術グループ 主席研究員）

自営系業務用無線のデジタル化を進めるために、走行中の自動車内や列車内などの厳しい騒音環境下でも使用可能な高騒音対応雑音抑圧技術を開発し、消防無線、列車無線、警察無線等の業務無線システムとして納入するとともに、3GPPを始めとする各種標準化活動に参画し、高品質デジタル業務無線システムの普及と標準規格化に寄与するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

(2) 「離島通信及び災害対策向け高効率衛星通信システム実用化」

日本電信電話株式会社

代表 山下 史洋 殿（日本電信電話株式会社 アクセスサービスシステム研究所
無線エントランスプロジェクト グループリーダー）

離島衛星通信システム及び災害対策衛星通信システムにおいて、新規に考案した任意速度・任意配置型 FFT フィルタバンク技術を実用化し、任意速度の通信信号を衛星中継器の任意周波数に配置することを可能とすることにより衛星中継器の周波数利用効率を大幅に改善し東日本電信電話株式会社及び西日本電信電話株式会社の商用システムとして導入するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

(3) 「可搬型非常用 UHF 帯伝送・放送装置とアンテナの開発」

関西テレビ放送株式会社

代表 奥村 肇 殿（関西テレビ放送株式会社 放送技術局 局長）

中継局が災害等により被災した際に、放送を復旧・維持するための装置として、「可搬・簡易・廉価」をコンセプトに伝送・放送装置とアンテナを開発・実用化し、昨年1月に石川県で発生した落雷による系列局の親局アンテナ焼損事故においていち早く現地に本アンテナを持ち込み、代替送信アンテナとして早期の放送復旧に寄与するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

(4)「無線アクセスネットワークのオープン化」

株式会社 NTT ドコモ 無線アクセスネットワークのオープン化推進チーム

代表 安部田 貞行 殿 (株式会社 NTT ドコモ 無線アクセス開発部 部長)

オープンで柔軟かつインテリジェントな無線アクセスネットワーク (RAN) を実現するため、昨年 2 月に海外 4 キャリアと共に O-RAN Alliance*を設立し、本年 3 月に NTT ドコモが中心となって策定したフロントホール仕様を引継ぎ仕様第 1 版を公開し、世界の主要オペレータとベンダ 27 社が本仕様の採用を表明するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

* O-RAN Alliance : Open Radio Access Network Alliance

(5)「災害時における船舶を利用した携帯電話基地局 (船舶型基地局) の実用化」

KDDI 株式会社 船舶型携帯電話基地局システム実用化チーム

代表 上口 洋典 殿 (KDDI 株式会社 技術統括本部 運用本部
サービスコントロールセンター センター長)

災害時に携帯電話サービスを早期復旧するため、携帯電話基地局が被災、道路が寸断された場合を想定し、船舶上に携帯電話基地局を搭載して、携帯電話通信を海上から確保するシステムを開発、昨年 9 月に発生した北海道胆振東部地震において、本システムを船舶*に配備・派遣し沿岸地域の通信を可能とするなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

* 海底ケーブル敷設船 KDDI オーシャンリンク (KOL) 号



表彰式における
吉田会長の挨拶



表彰式における
國重総務大臣政務官のご祝辞



表彰式における
羽鳥選考委員長のご挨拶



受賞者を代表して
八所 昌宏様のご挨拶